

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：32664

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25282066

研究課題名(和文) 近世後期の医学塾からみる漢蘭折衷医学の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Research on the Chinese-Dutch Eclectic Medicine from the Perspective of the Private Medical Schools of the Late Early Modern Period

研究代表者

町 泉寿郎 (MACHI, SENJURO)

二松學舎大學・文学部・教授

研究者番号：40301733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18～19世紀日本の多様な医学の「学び」に着目し、転換期の医学の歴史的推移を解明するための基礎調査を行った。「漢蘭折衷」の多くは、民間を中心に普及した吉益流の処方学を基礎に、華岡流をはじめとする蘭方系の外科・眼科・産科等を付加した形で学ばれた。幕府・諸藩では漢方系の考証学が医学教育に一定の影響を及ぼし、蘭学導入に積極的であったとされる藩でも、実際には漢方中心に講じられた。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the diversity of medical “learning” in eighteenth and nineteenth centuries Japan. A basic investigation was conducted to elucidate the historical shift of medicine during the transition period. Many of the “Chinese-Dutch eclectic” were learned using as a basis the study of the formulas of the Yoshimasu School popular among the population, supplemented by Dutch medicine, such as surgery, ophthalmology and obstetrics, including the Hanaoka School. In the government and feudal domains, Chinese medicine evidential scholarship exerted a certain influence on medical education. Even in domains active in introducing Dutch learning, medical education was centered on Chinese medicine.

研究分野：日本医学史

キーワード：漢蘭折衷 医学教育 古方派 考証学 在村蘭学 蘭方 華岡流

## 1. 研究開始当初の背景

近世後期の医学教育状況：京都の私塾に遊学する学生のうち大多数が医学生であったといわれ(江村北海『授業編』1783年)、近世期出版物に占める医書の割合は高く、前近代日本の向学動向を見る上で医学は重要な位置を占める。1800年頃になると幕府・諸藩による公立学校が増加し、幕末までに三百諸藩の殆どに設置され、その15～20%の公立学校では別に医学校が設けられた。しかし16世紀末の曲直瀬道三の啓迪院から19世紀の緒方洪庵の適塾にいたるまで、近世日本に連綿と存在した医学教育の場は私塾(医学塾)であった。

研究動向：明治以来の教育史研究は、藩校など公立学校と寺子屋など初等教育の両極に偏しており、その中間に多種多様に存在した私塾の研究は立ち遅れていた。最近、漢学塾の研究が全国的に活発になり、幕末明治の教育を断絶と連続の両面でもとらえる見方が示されている。公立医学校の研究は、山崎佐「各藩医学教育の展望」(1955年)のほか、洋学先進地を中心に蓄積がある。医学塾は著名医の研究の一環として行われることが多かったため、そこに学ぶ塾生たちは漢学・医学・洋学・算学・書画など多種多様な塾での兼学が普通であったにもかかわらず、そうした修学内容の解明は不十分である。かつ公立学校と私塾の関係に配慮した研究も不足している。近年、地域医療や社会史の視点から注目すべき成果も出ているが、村落単位での地域的特性に詳しい反面、都市文化との関連や幕府の医政への目配りには手薄い憾みがある。また、19世紀日本の漢方医学から西洋医学への転換期の問題は、近代と前近代、蘭方と漢方とに研究者の乖離があるため、近世後期に広く行われていた漢蘭折衷医

学についても、漢方・蘭方の双方からあまり対象化されず、麻醉科学史上の華岡青洲の意義などのトピックが知られる一方で、全体としてはその研究が深められる機会は少なかった。

## 2. 研究の目的

従来の研究成果：我々は近世医学典籍・医家文書の実地調査や整理に豊富な経験を持ち、本研究に直接に関わる成果としても、下記のような研究を発表してきた。

○**江戸・京坂・諸藩の医学塾**：幕府医官多紀氏、江戸蘭学堀内氏、明治漢方医浅田氏、京都古方吉益氏、大坂蘭学諸家、佐倉順天堂、紀州漢蘭医華岡氏、大垣蘭学江馬氏など。

○**幕府・諸藩の公的医学校**

○**在郷町医・在村医の「学び」**

○**蘭方・蘭学の「学び」**

○**漢学塾などの私塾**

本研究では、これまでの研究の方法と成果を統合しつつ、新たに「学び」の視点に立って、近世後期の転換期の医学・医療を総合的に捉え直そうとした。

近世後期にひろく見られる漢方・蘭方を含む複数の医学塾と漢学塾に兼学する修学形態と、多種・多様な漢蘭折衷諸派の成立と展開には、分かちがたい関連があると思われる。漢蘭折衷諸派の「学び」に着目し、「漢」と「蘭」がどのように折衷されているか具体的に検証し、漢方医学から西洋医学への転換期の医学・医療の諸相とその歴史的展開を追求することが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

課題：一次資料の解読研究による漢蘭折衷派の「学び」の解明

1)大坂華岡塾合水堂資料(神戸市・個人蔵)を核とした華岡流の「学び」と伝播の研究  
大坂合水堂資料は、戦前の呉秀三の研究

が十分に検討していないので、華岡流の展開と伝播に新知見を得る可能性が高い。大坂の蘭学・漢蘭折衷諸派における華岡塾の位置付けをめざす。

#### 2) 備前難波氏温故堂文庫(労働科学研究所蔵)による漢蘭折衷派の「学び」の解明

難波抱節・立愿父子の医学資料であり、十分な検討が行われていない。難波氏は吉益塾で古方を、大坂華岡塾で外科術を、日出藩儒帆足万里に儒学・自然科学を学んでおり、その学問は大坂合水堂の展開・伝播とも関連し、また漢蘭折衷派の「学び」の実態解明が期待できる。

#### 3) 田中氏彌性園文庫(杏雨書屋蔵)による都市と在郷町のネットワークの解明

田中氏は平野郷学舎翠堂や大坂懐徳堂・混沌社と交流をもった在郷医で、儒学・医学の兼学をよく示す資料群。蘭学・洋学によってもたらされる新しい学知・技術を当該期の医療従事者がどのように受容し、またそのことが文化史的にいかなる意義をもったかを解明する。

#### 4) 高取藩医服部氏資料(杏雨書屋蔵)による蘭学者のネットワークの解明

服部宗賢は榎林由仙・畑柳安・小野蘭山らに学んだ漢蘭折衷派の医家で、江戸の蘭方医とも広く交流した。遺された文書・日記・医書・薬籠等から、その人物交流や医療実態を解明する。

#### 5) 備前総社赤木氏大棗亭文庫(岡山県倉敷市・個人蔵)の研究

赤木氏は吉益流古方と蘭学を学んだ。未整理の文庫により、その「学び」の実態を解明する。

課題 : 医学塾の教育機関としての特色と意義の解明

#### 1) 幕府医学館・諸藩医学校など公立医学校と医学塾との比較検討

#### 2) 漢学等も視野に入れた漢蘭折衷派諸家の学統学派の研究

#### 3) 医学塾とその他の漢学塾など私塾間との情報ネットワークの解明

#### 4. 研究成果

合水堂資料・温故堂資料が研究期間内に杏雨書屋の所蔵に帰し、研究体制の整備によって目録作成等が進捗した。所期の調査対象以外にも多くの新たな資料群を調査し、以下に掲げるように多くの学会発表や論文作成、また目録や資料翻印等を公表することができた。研究の前提となる資料整備に大きな成果をあげたことは強調しておきたい。

#### 医学塾の性格の歴史的な解明

医学塾(特に大坂華岡家・合水堂資料など)の一次資料を用いて、医学塾の運営方法、教科内容等を検討し、研究成果を資料展示や講演会によって公表した。

また近世医学塾の源流に遡って、曲直瀬道三の医学についても、これまでの研究成果を総合した論文集を刊行した。

18世紀後半以降、公立医学校を含む公立学校が増加するなかで、医学塾を含む私塾と公立学校との関係についても検討した。医学館における鍼灸医学において、解剖に高い関心が払われていることが明らかになった。

全般的な傾向として言えば、幕末に至るまで、幕府や諸藩では漢方系の考証学が医学教育に一定の影響を及ぼし、蘭学導入に積極的であったとされる藩でも、実際には漢方中心に講じられた。

幕末の政治社会動向と蘭学・蘭方との関りについて、徳川斉昭の『景山奇方集』や藩医木内玄節などを中心に検討し、水戸藩の医学教育と医療政策について論じた。

前近代日本医療従事者の「学び」の解明: 公立学校が増加する時期においても、医療従事者の多くは医学塾を含む複数の私塾での兼学を通して、必要な学知・技術を習得していた。備前・備前・中島家、

備中・赤木家、讃岐・尾池家などに残された一次資料(典籍と文書)をもとに、近代公教育の成立以前、医療従事者がどのように必要な学術を習得したのか、具体的に解明した。

蘭学・蘭方の折衷の実態は、19世紀に民間を中心に全国的に普及した吉益流古方の処方学の基盤の上に、華岡流外科や眼科・産科など、その時点での最新医学を付加するかたちで学ばれることが多かったことを明らかにした。

折衷の理論の解明に関しては、海上随鷗・野呂天然らの従来異端視される蘭方医たちの業績を見直すことに取り組んだ。

『傷寒論』の注釈や『観聚方要補』などを考察対象として、蘭学普及の一方で、漢方古典研究の取り組みがどのように変容していったかという問題について、検討を加えた。

また種痘などの新しい医療技術に対する同時代の受け止め方を、医者への漢詩文等から考察した。

私塾間の各種ネットワークの解明

華岡流に残された各種の門人録を総合的に調査整理して、華岡流の全国的普及について、明らかにした。

備中・備前・備後・讃岐等の瀬戸内地域の医家の資料を調査し、その京都遊学日記や書簡の関連資料を調査し、医学塾・漢学塾・蘭学塾の間の知的・人的なネットワークについて解明した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

町泉寿郎:18世紀瀬戸内地域の医学に関する小考 讃岐尾池家,備中赤木家の資料を中心に  
香川短期大学紀要 45 pp15-28 2017

町泉寿郎:漢蘭折衷の医学  
杏雨 19 pp27-53 2016

清水信子:神内家蔵書目録(医書・古典籍之部)  
日本漢文学研究 11 pp189-206 2016

加畑聡子:江戸医学館官立化時期における小坂元祐の経穴学教育  
日本伝統鍼灸学会雑誌 43-1 pp24-42 2016

酒井シヅ:近代医学黎明期の日本の医学  
滋賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要 9 pp13-22 2015

梶谷光弘:華岡家門人録の特徴について-出雲国の門人37人の分析を通して  
日本医史学雑誌 61-4 pp409-421 2015

合山林太郎:近世日本における山田長政伝説と「暹羅物語」  
文学 16-6 pp34-44 2015

梶谷光弘:出雲地方へ伝播・浸透した華岡流医術について  
洋学 23 pp188-207 2015

合山林太郎:適塾をめぐる詩と書 第4回 酒を江湖に戒むるは事之有り 長与専斎  
適塾 47 pp157-177 2014

梶谷光弘:松江藩医北尾家の系譜について  
松江歴史館研究紀要 4 pp1-10 2014

梶谷光弘:華岡青洲門人石堂鼎と妹背家-華岡家を支え続けた功労者  
日本医史学雑誌 60(1) pp37-48 2014

町泉寿郎:江戸医学館の官立化と神農祭祀  
斯文 122 pp81-108 2013

町泉寿郎:江戸医学館における臨床教育  
日本医史学雑誌 59(1) pp17-33 2013

〔学会発表〕(計32件)

町泉寿郎:丸川松隱の師尾池薫陵について  
三島中洲研究会 2017/03/23 二松学舎大学

町泉寿郎:近世の医学塾からみる漢蘭折衷医学の総合的研究の成果と課題  
「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム 2017/03/10 二松学舎大学

合山林太郎:幕末期の諫早における医と漢詩-野口良陽、松陽父子を例に-  
「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム 2017/03/10 二松学舎大学

小曾戸洋:本草学と薬学と医学  
「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム 2017/03/10 二松学舎大学

酒井シヅ：漢蘭折衷医学の始まり  
「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム  
2017/03/10 二松学舎大学

加畑聡子：江戸中後期の医学公教育における漢蘭折衷  
「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム  
2017/03/10 二松学舎大学

松村紀明：岡山藩医学館にみる漢蘭「折衷」と医療統制  
「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム  
2017/03/10 二松学舎大学

梶谷光弘：大明流鍼術の変容とその視点について - 『鍼法一軸』にみる循環的視点  
「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム  
2017/03/10 二松学舎大学

清水信子：近世における地方医家の学問修業  
「漢蘭折衷に関する総合的研究」シンポジウム  
2017/03/10 二松学舎大学

町泉寿郎：江戸後期の福山藩と考証医学 伊澤蘭軒とその学統  
第 117 回日本医史学会（招待講演）  
2016/05/21～22 広島県医師会館

對馬秀子、酒井シヅ：明治初年における八丈島の種痘  
第 117 回日本医史学会  
2016/05/21～22 広島県医師会館

加畑聡子：山崎宗運の「骨度折量尺」  
第 117 回日本医史学会  
2016/05/21～22 広島県医師会館

加畑聡子：山崎宗運の『天聖銅人輸穴鍼灸図経彙攷』に見える加筆について  
世界鍼灸学会連合会 2016 世界大会  
2016/11/05～11/06 つくば国際会議場

加畑聡子：近世日本における医学公教育の形成 経穴学教育を中心に  
日本伝統鍼灸学会  
タワーホール船堀 2015/10/25

町泉寿郎：江戸後期水戸藩の医学 - 『景山奇方集』と江戸後期水戸藩の医学 -  
第 6 回徳川家旧蔵史料調査報告会  
東京・二松学舎大学 2015/08/01

町泉寿郎：漢蘭折衷の医学  
第 116 回日本医史学会総会  
大阪・日本綿業倶楽部 2015/04/20 -21

合山林太郎：種痘をめぐる漢詩文・幕末期を中心に  
第 116 回日本医史学会総会  
大阪・日本綿業倶楽部 2015/04/20 -21

加畑聡子：津田（田村）玄仙による学校設立の試み  
第 116 回日本医史学会総会  
大阪・日本綿業倶楽部 2015/04/20 -21

小曾戸洋：杏雨書屋のコレクション  
第 116 回日本医史学会総会  
大阪・日本綿業倶楽部 2015/04/20 -21

松木明知：華岡青洲と麻酔  
第 116 回日本医史学会総会  
大阪・日本綿業倶楽部 2015/04/20 -21

酒井シヅ：日本最初の医学士内田由己について  
第 116 回日本医史学会総会  
大阪・日本綿業倶楽部 2015/04/20 -21

町泉寿郎：漢蘭折衷の医学  
杏雨書屋第 62 回特別展示会研究講演会  
大阪・杏雨書屋 2015/04/18

梶谷光弘：和方・漢方から蘭方の受容について 島根大学所蔵資料を中心として  
島根大学医学部国際交流推進室主催、特別講演会「西洋医学と東洋医学との出会い」  
島根大学 2014/12/25

加畑聡子：江戸時代藩校における蘭学教育  
「近世後期の医学塾からみる漢蘭折衷医学の総合的研究」第 5 回研究報告会  
杏雨書屋 2014/08/01

清水信子：漢蘭折衷医学の人々と関連資料 旧蔵資料を中心として  
「近世後期の医学塾からみる漢蘭折衷医学の総合的研究」第 5 回研究報告会  
杏雨書屋 2014/08/01

町泉寿郎：漢蘭折衷医学の資料群とその研究状況について  
「近世後期の医学塾からみる漢蘭折衷医学の総合的研究」第 5 回研究報告会  
杏雨書屋 2014/08/01

清水信子：労働科学研究所所蔵「温知堂文庫」資料について  
第 115 回日本医史学会総会・学術大会  
九州国立博物館 2014/06/01

加畑聡子：小坂玄祐の経穴学  
第 115 回日本医史学会総会・学術大会  
九州国立博物館 2014/06/01

町泉寿郎：海上随鷗(1758-1811、稲村三伯)の医書について  
第 115 回日本医史学会総会・学術大会  
九州国立博物館 2014/06/01

町泉寿郎：収集文献・器物から見るシーボルトと近世日本の医学  
シンポジウム「シーボルトの求めた日本古典籍」 東京・国文学研究資料 2013/11/08-09

町泉寿郎：19世紀日本における医学の学び私塾に焦点を当てて  
日本資料専門家欧州協会 2013 年次大会  
パリ・BULAC 2013/09/17-20

町泉寿郎：服部宗賢(1752～1820)文書の研究  
114 回日本医史学会  
東京・日本歯科大学 2013/05/11-12

〔図書〕(計5件)

松村紀明・町泉寿郎・清水信子・酒井シツ・梶谷真司ほか：備前岡山の在村医中島家の歴史  
総頁数 301 思文閣出版 2015

町泉寿郎、小曾戸洋、清水信子ほか 12 人：  
曲直瀬道三と近世日本医療社会  
総頁数 898 武田科学振興財団杏雨書屋  
2015

町泉寿郎、小曾戸洋、清水信子：近世京阪の医学  
総頁数 52 武田科学振興財団杏雨書屋  
2015

町泉寿郎ほか：シーボルト日本書籍コレクション 現存書目録と研究  
総頁数 675 勉誠出版 2014

MACHI Senjuro : Listen, Copy, Read;  
Popular Learning in Early Modern Japan  
総頁数 380 Brill 2014

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホーム pp 等

6. 研究組織  
(1)研究代表者  
町泉寿郎(MACHI, Senjuro)  
二松学舎大学・文学部・教授  
研究者番号：40301733

(2)研究分担者  
小曾戸洋(KOSOTO, Hiroshi)  
北里大学・東洋医学総合研究所・研究員  
研究者番号：90186693

酒井シツ(SAKAI, Shidu)  
順天堂大学・医学部・特任教授  
研究者番号：00053033

合山林太郎(GOYAMA, Rintaro)  
慶應義塾大学・文学部・准教授  
研究者番号：00551946

松村紀明(MATSUMURA, Noriaki)  
帝京平成大学・ヒューマンケア学部・講師  
研究者番号：00422379

(3)連携研究者  
松木明知(MATSUKI, Akitomo)  
弘前大学・医学部・名誉教授  
研究者番号：20003543

梶谷真司(KAJITANI, Shinji)  
東京大学・総合文化研究科・教授  
研究者番号：50365920

梶谷光弘(KAJITANI, Mitsuhiro)  
島根大学・医学部・特任教授  
研究者番号：60774552

(4)研究協力者  
清水信子(SHIMIZU, Nobuko)  
二松学舎大学・非常勤講師

加畑聡子(KAHATA, Satoko)  
北里大学・付置研究所・有給研究員